

スマート・プランニングによるまちなかコンテンツ最適化事業（新潟市スマートシティ協議会）

■都市課題

- ・中心市街地を活性化するため、将来的なハード整備により新たに創出される集客効果をまち全体に波及させるソフト施策の充実が必要。

■解決方策

- ・「回遊性向上施策の実施」と「来訪者の行動分析」を両輪とする「ウォカブル空間マネジメント」の実施により、呼び込んだ来街者の回遊促進を図る。

■KPI

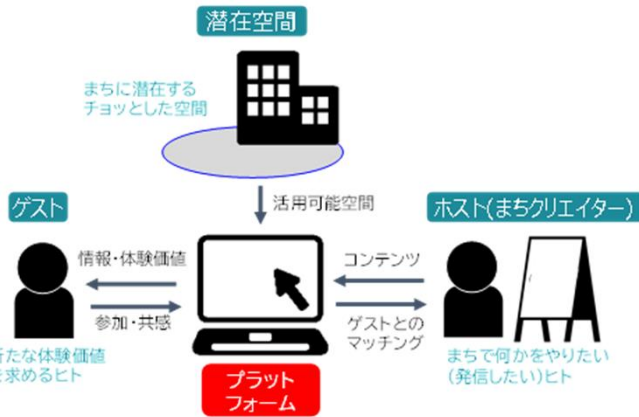
- ・来街者一人あたり立寄箇所数：2.5箇所以上
- ・空間活用PFの活用により実施されたコンテンツ数：30以上

■実証実験の概要・目的

- ・まちなかの活用可能なオープンスペースに、コンテンツを創出する仕組みを活用した実証により、コンテンツ創出に係る運用面の課題や効果検証に加え、得られたデータを活用したスマート・プランニングを実施し、当該コンテンツの回遊性への影響やコンテンツの配置検討上の着目点を把握する。

■実証実験の内容

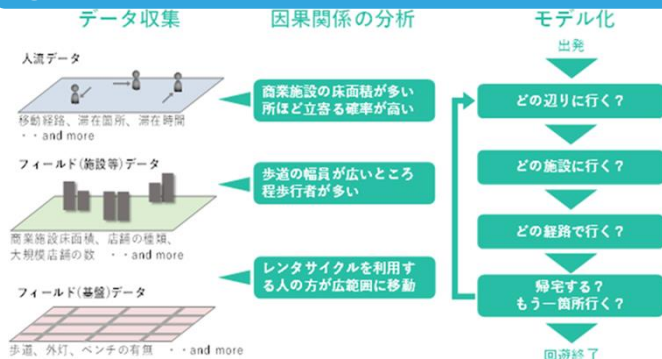
① オープンスペースにコンテンツを創出する仕組みの実証



■実証風景



② スマート・プランニングによる評価及び行動特性の把握



■本事業の着目点

- ・賑わいコンテンツの実施によるまちなかの回遊性への影響
- ・賑わいコンテンツの配置検討を行う上での着目点

■実証実験で得られた成果・知見

① コンテンツの実施効果

- ・27人がコンテンツの実施に参加し、実施可能なコンテンツを一定数発掘。
- ・ホストへのアンケートより、「活用可能なスペースの可視化」や「スペースを活用するためのサポート」など、本取組に対するニーズを改めて確認。
- ・賑わいコンテンツに立寄った方の回遊性が比較的高く、コンテンツの実施が回遊性の高い人をまちなかに増加させる可能性を示唆。
- ・スマート・プランニングの推定モデルにおいても、コンテンツの実施有無が目的地選択に影響する兆候を確認。

② 来訪者の新たな回遊特性の把握

- ・賑わいコンテンツの配置検討に参考となる以下の特性を把握。
⇒立寄箇所の配置間隔として200m以下を目安とすることが望ましい。
⇒最終目的地（駅など）への動線上に立寄箇所があると回遊性向上に寄与。

■今後の予定

■オープンスペースを活用したコンテンツの創出

- ・集まったコンテンツに付加価値をつけ、集客力等を高めるためのサービス運営（企画やコーディネート）を推進。
- ・より一層地域の関係者との連携を誘発するプラットフォームの構築（シェアマップなど）。

■スマート・プランニング

- ・行政が実施するハード整備（集客拠点など）等の他団体の実施するまちづくり施策と連携し、新たに創出される人の集積効果をまち全体に波及させるための検討に活用。